



請戸小学校

双葉郡浪江町大字請戸字持平 56



海にほど近い地に建つ 潮風薫る小学校

政府の「学制」を受けて明治初頭に請戸村で肝煎を務めた濱谷善一氏の自宅に開設した「広業小学校」が、請戸小学校の始まりです。

海から約300メートル内陸に建つ校舎は1998（平成10）年に改築され、クジラやカモメ、波をモチーフにしたデザインが至る所に取り入れられていました。なかでも体育館は、外側はシロナガスクジラ、内側は木造船の船底風の大変立派な施設でした。シンボリックな存在であった展望台からは、請戸を見渡すことができました。また、相双を代表する画家・朝倉悠三さんの絵を大堀相馬焼に焼き付けたタイルが、校舎の壁や廊下にたくさん埋め込まれていました。

校 歌

作詞／冬村 春踏 作曲／渡邊 義章

1. ほのかなる 潮の香りよ
風そよぐ 砂金の丘よ
永遠に 潮騒渡る
海近い 平和な土に
巖と立つ われらが母校
ああ請戸 小学校
2. 遙かなる 雲の行方よ
涯てしない 空の青さよ
美しい 未来の夢に
この翼 羽ばたく日まで
励まなん われらが母校
ああ請戸 小学校

沿革

明治 6年 7月	請戸字本町濱谷善一氏宅に広業小学校創立	校庭西側にモチノキ植樹（40本）
7年 9月	請戸小学校と改称	平成19年 6月 県学校歯科保健優良校最優秀表彰受賞
8年 6月	請戸字大師堂の校舎落成	20年 6月 県学校歯科保健優良校優秀表彰受賞
20年 4月	請戸尋常小学校と改称	23年 3月 東日本大震災および原発事故のため臨時休業
22年 3月	火災により校舎全焼	3月11日（震災直後の動き）
大正 8年 4月	請戸尋常高等小学校と改称	14:46 地震発生
22年 7月	校舎新築	14:47 安全確保のため待機指示
昭和16年 4月	請戸村国民学校と改称	14:51 大津波警報発令確認
22年 4月	請戸村立請戸小学校と改称	14:52 児童の安全確認と避難指示
23年 2月	父母と教師の会結成	14:54 教務主任先導で大平山に向けて避難開始
23年 6月	県指定により学校給食開始	14:55 校長・教頭、保護者対応。児童との合流は大平山
28年10月	町村合併に伴い、浪江町立請戸小学校と改称	15:15 校長、保護者の来校が止まり大平山に向けて避難
35年11月	校章制定（本校図工主任・松本亨教諭による） 校旗樹立（緑 安雄氏寄贈）	15:17 教育委員会担当者来校し、避難指示
37年 9月	校歌制定 冬村 春踏（請戸出身）作詞	15:35 教頭、校舎最終確認後大平山に向けて避難
45年 2月	新校舎改築落成	15:37 津波により電気設備複合盤機能停止
48年 9月	本校PTA 県連Pより表彰される	16:30 国道6号双葉町鴻の草地区到着
49年 2月	創立100周年記念式典挙行 記念誌ともづな刊行	16:40 運送業者大型トラック荷台でサンシャイン浪江へ
56年 1月	東地区共同調理場発足	23年 7月 卒業生を励ます会：福島市A・O・Z（アオウゼ）
58年 6月	「よい歯の学校コンクール」特別優秀校表彰受賞	23年12月 元気だった会①：本宮市・県農業総合センター
平成元年10月	県小教研道徳部会開催	24年 8月 元気だった会②：郡山市少年湖畔の村
8年11月	新校舎建設用地造成工事開始（請戸字持平地内）	25年 7月 元気だった会③：猪苗代町総合体育館
10年 3月	新校舎竣工・開校式（請戸字持平56番地に移転）	26年 8月 元気だった会④：猪苗代町農村環境改善センター
10年 5月	新校舎落成記念式典挙行	30年 8月 浪江町震災遺構検討委員会の設置
11年 9月	第54回福島県下小・中音楽祭銅賞受賞	31年 2月 浪江町震災遺構検討委員会から震災遺構保存・活用の提言
14年 6月	福島県学校歯科保健優良校表彰受賞	31年 3月 休校
14年10月	第53回学校関係緑化コンクール理事長賞受賞	令和元年 8月 請戸小学校震災遺構基本・実施設計業務着手
15年 9月	県学校給食優良団体として表彰される	2年 6月 請戸小学校震災遺構整備工事着手
17年11月	特別支援教育対応校舎改築	3年 3月 閉校
18年11月	東地区学校給食共同調理場 文部科学大臣表彰	3年 請戸小学校震災遺構一般公開開始予定

「ふるさと追想」

浪江のころ通信

平成30年広報なみえ
2月号より抜粋



いろいろな経験を、これからの人生に活かしたい

玉野 紘成さん（大学1年）

震災の時は小学6年生でした。教室からまず校庭に避難し、大平山に走って逃げました。その後、家族は各地を転々とし、僕は千葉の中学校に入学しました。最初は周りとうまく付き合っていたのですが、だんだんと同級生や先生の気遣いが重く、つらくなることがありました。たとえばある時、震度3くらいの地震が起これば、僕が卓球台の下に潜り込んだのを見て笑った同級生を、先生がきつく叱りました。同様のことが何度かありました。

3.11の経験を活かして人の役に立つ資格を取りたいと、今は社会福祉士を目指して大学生活を送っています。小学校の時の友だちは、まだ消息が分からない人もいます。この記事を読んだ友人から連絡がくるとうれしいです。

震災前の学校の風景



鼓笛パレード



クラスの仲間と



旧校舎



震災前の校舎



安波祭



安波祭



サンドアート

震災直後の記録とその後

震災発生直後、地域の方が「この地震は普通じゃない。津波が来る。子どもたちを避難させろ」と集まりました。校長先生の「津波が来る。大平山へ避難」の指示で、保護者に引き渡さずに児童全員と山に向かいました。避難ができたのは地域の方が一緒だったことと山道を知っている子がいたからです。山道に入ってから「バキバキ」という、町が津波に飲み込まれる音が聞こえましたが、木々に覆われていたため、児童には津波や町が破壊される様子を見せずにすみました。国道6号に抜け、大型トラックの運転手さんが児童や教職員、住民100人余りを役場まで乗せてくれて助かりました。児童が全員無事だったことは大きな喜びでした。

その後児童は県内外に避難しました。先生、級友との最初の再開の機会「元気だった会」は約9カ月後に開催されました。懐かしく楽しく過ごし、「また会いましょう」と笑顔で別れることができました。そして翌年8月、2度目の「元気だった会」は郡山市少年湖畔の村で開催され、請戸の海岸を懐かしく思い返しながら、湖水浴や砂遊びで猪苗代湖での夏を満喫しました。

甚大な被害を受けた請戸小学校校舎は、できるだけそのままの形で残し、教訓を未来に伝えるべく、2021（令和3）年度に「震災遺構」として公開する予定で整備を進めています。



卒業生を励ます会（2011年7月）



郡山市にて子ども交流会（2011年7月）



元気だった会（2013年）



黒板への応援メッセージ



避難時の奇跡が絵本や紙芝居として完成